

地球サミット 2012 Japan 設立趣意書

1992年、ブラジルのリオデジャネイロで、環境と開発のための国連会議——通称、地球サミットが開催されました。まさにここから、私たちは持続可能な世界に向けた壮大な挑戦へ舵を切りました。

それから20年、様々な変化が私たちを訪れました。グローバル化が進み、新興国が飛躍的な成長を遂げました。人々の環境意識が高まり、周囲にはエコが溢れています。しかし一方で、依然として年に4万の生物種が失われ、5秒に一人の子ともが餓死しています。政府間の交渉が進まない中、この20年間だけで、アルゼンチンの国土を上回る森林が失われ、CO₂排出量は36%増加しました。

こうした中、2012年6月、地球サミットから20年という節目の時期に、同じリオで国連持続可能な開発会議——通称リオ+20が開催されます。20年間の歩みを総括し、未来に向けた人類の決意を新たにするため、再び世界がリオに集います。そしてこの地球の饗宴に、私たち一人ひとりも、地球市民としての参加と貢献を求められています。

とりわけ、日本からの発信は、人類全体にとって大きな意味を持っています。焼け野原からがむしゃらに走り続け、経済大国としての栄光と喪失のすべてを経験し、高齢化、心の病、自殺、無縁社会など、世界が今後直面する課題の最前線にいる私たちは、人類が目指すべきもう一つの未来、新しい豊かさのカタチに気づき始めています。特に、3.11に始まり今も続くこの困難は、戦後の世界が依って立ってきた私たち自身のありよう見つめ直すことを迫っています。

私たちは、持続可能な世界のために自ら行動を起こすとともに、私たちが通ってきた道と、3.11を経て気づき始めた新しい未来の姿とを、世界に伝えなければなりません。そして、志を同じくする世界の人々と手を取り合い、90億人の人々が分かち合って行きていける世界の実現に向けて、動き出さなければなりません。

私たち日本の市民は、2012年の地球サミットを通じ、持続可能な社会へのシフトを日本から起こすため、「地球サミット 2012 Japan」（英語名：Earth Summit 2012 Japan）を設立します。未曾有の困難を乗り越え、私たちが描く未来の姿を、人類全体のシフトのために世界に発信していきます。